

日本少年野球大阪阪南 1 年生親善大会規定

1. 1 チームの登録選手は **1 1 名以上 2 5 名以内**とする。
2. 登録選手およびチーム責任者、登録された監督・コーチ・スコアラーのみベンチに入ることができる。(登録選手は、連盟に登録され、指定の傷害保険加入者に限る)
スコアラーの役目 (試合のスコアブックを記録する以外は出来ない)
3. チーム責任者はチーム責任者証を持参する事、チーム代表以外はチーム責任者証と指導者証を持参、提示すること (指導者とは、連盟に登録された副代表・コーチ・マネージャーの事)
チーム責任者が不在の場合は試合ができない。
4. 組合せの若番号が 1 塁側のベンチ、後番号が 3 塁側のベンチに入る。
5. 監督 (背番号 6 0)・コーチ (背番号 5 0) は選手と同じユニフォームを着用すること。
合同チームは自チームのユニフォームで参加できる。(合同チーム参加は主催チームのみ)
6. 試合開始時間 6 0 分前に試合球場に到着し到着と同時にオーダー表 5 部、投手投球数記録表 (副) 3 部および大会初戦の時は、直前大会参加報告書を本部に提出のうえ所定の審査を受ける。
7. 所定の審査終了後、両キャプテンにより、先攻・後攻をジャンケンで決める。
8. 試合開始までにチームがグラウンド内に到着しないとき、球場責任者と責任審判員と協議し没収試合を宣言することができる。
9. 試合は 6 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は開始から 1 時間 4 0 分を超えた場合、新しいイニングに入らない。また、試合成立後、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、球審が打ち切りを宣言した時の両チームの総得点で勝敗を決する。ただし、その回の表で先行チームが同点としたが、後攻チームが得点しないうち、あるいは表で先行チームが逆転したが、後攻チームが同点または再逆転しないうちに打ち切られた時は、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合は、最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に上記の理由により試合続行が不可能となった場合はサスペンデッドゲームとする。
【付記】野球場施設の利用時間制限などにもなう、試合時間の短縮が発生した場合。
10. 6 回終了後、同点の場合・あるいは試合開始から 1 時間 4 0 分を超えては新しいイニングに入らずタイブレーク方式を実施する。
11. 4 回終了時以降 7 点差の場合、および日没をコールドゲームとする。
12. 中学 1 年生の投球制限 (連盟の投球制限ガイドラインを基本とする)
 - (1) 1 日最大 7 0 球とし、連投する 2 日間で 1 0 5 球とする。
また 3 連投 (連続する 3 日間) する場合は 1 日の投球数を 3 5 球以内とし 4 連投 (連続する 4 日間) は禁止する。
 - (2) 大会期間中は 1 日 7 0 球投球後、翌日投球を休めば連続 3 日目は 7 0 球の投球可能
 - (3) (1)~(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了まで投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
 - (4) 連続する 2 日間で 7 0 球を超えた投手、並びに 3 連投した投手は翌日、捕手としても出場できない。
 - (5) ボークは投球数に入れない。
 - (6) 雨などノーゲームになった試合も投球数にカウントする。
 - (7) ダブルヘッダーの場合で 2 試合に登板した時は連続 2 日間投球したとする。
13. 試合前のシートノックは行わない。
14. **監督、コーチの指示に関する制限について (改定)**
監督及びコーチの指示、伝達は 1 試合で攻撃 2 回と守備 2 回の計 4 回とする。延長戦またはタイブレークに入った場合は、それぞれで 1 回の指示、伝達を認める。
内野手 (捕手を含む) が 2 人以上投手のところへ行ったらときも 1 回に数える。
スピードアップの観点から投手のもとへ行くことだけでなく、監督またはコーチが選手

を呼んで支持する行為も回数に数える。

投手および野手を交代する場合は、ファウルラインを超える前に球審に交代を通告しなければならない。

ファウルラインを超えてから交代を通告した場合は指示の回数に数える。

1 イニングで同一の投手に対して指示が 2 回目となれば、その投手は自動的に試合から退かなければならない。

守備側の投手に対する指示、伝達が 3 回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。

15. **同一イニングでの投手の守備位置の交代について**

投手は同一イニングで二度目の投手に戻れば、それ以降同一イニングでは他の守備位置につく事はできない。

16. 監督又はコーチが選手にアドバイスする時は、ピッチャーマウンドのところで行うこと。

17. 監督、コーチおよび選手は、審判のジャッジに対して、絶対に服従し、抗議することを厳禁する。ただし、規則上の疑義の申し出については、必ず監督または問題の当事者のみが、審判に説明を求めることができる。この場合「3 分以内」に規制する。

18. ヘルメットは 1 チーム 7 個以上同色で完全な物（各チーム持参すること）を備えること。

19. ユニフォーム、バット、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

20. 捕手は必ずヘルメット及びユニフォームの下に規定防具を着用すること。

21. 試合中の負傷については、主催者側でも応急処置は行うが、それ以上の責任は負わない。
また賠償事故についても主催者側は責任を負わない。（出場チームはチーム賠償保険等に参加していること）

22. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

23. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合それに従うこと。

24. その他本規定に定めがないものは、(公財)日本少年野球連盟の規定による。

25. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策ガイドラインを遵守下さい。

<タイブレーク実施細則>

(1) 特別規則

(イ) 6 回あるいは試合開始から 1 時間 40 分を超えて、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行う。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- ・ 規定により出塁した 3 走者は、投手の自責点とはしない。
- ・ 完全試合は認めない。
- ・ 無安打無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

- ・ 規定により出塁した 3 走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ・ 規定により出塁した 3 走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録する。

＜運営細則 および試合中のマナーについて＞

1. 試合前に、グラウンドに立ち入りできるのは、ベンチに入ることを許可されたチーム責任者・選手・監督・コーチ・スコアラーのみとする。
2. 試合前のサイドノック及び外野ノック等は、監督(60)、コーチ(50)に限る。
3. サイドノック及び外野ノック時、「捕手」「ボール渡し者」および「その他危険ゾーンの近くにいる選手」は、全員ヘルメットを着用すること。また、試合中においてもベンチ付近等、「危険なゾーンにいる選手」は、ヘルメットを着用すること。
4. 試合前のトスバッティングで、スタンド方向に向かって打つことを厳禁する。
5. マスコットバット・バットウェイトリングの、ベンチ内持ち込みを禁止する。
6. 次試合の投手が、グラウンド内に入ってから練習は禁止する。ゲームセットが宣告された時点で、直ちにグラウンドに入って準備する。グラウンド外に練習場所がある球場においては、球場責任者の指示に従うこと。
7. 攻撃側ベンチ等から投手に対して『ボーク・ボーク』等の大きな声を発しないこと。
8. 投手が投球動作に移ったら、大きな声や投球動作を中断させるような言動は慎むこと。
9. ベンチ内の選手に対しベンチ外の指導者・保護者等からの声掛けはしないこと。
10. 全てのチーム専用グラウンドでは近隣住民に迷惑となる行為・行動は禁止する。
(球場責任者の指示に従って行動して下さい)